

「情報」と「産業社会と人間」の連携

～情報を簡潔に伝える力～

神奈川県立鶴見総合高等学校 山田 恭弘

総合学科における教科「情報」の授業実践として、本校における「情報A」と「産業社会と人間」が連携した授業について発表をする。誰もが発信者となる現在において、情報を簡潔にまとめ、伝える力が必要になっている。「産業社会と人間」での学びを「情報A」の授業でまとめ、情報発信をする、という活動を通して、キャリア教育の充実と、情報活用能力の育成を図る。

1. はじめに

本校では、「産業社会と人間」での学びを、「情報A」の授業でまとめ、発表を行っている。

今回は、本校における「情報A」と「産業社会の人間」が連携した授業実践について発表を行う。

1.1 鶴見総合高校

本校は、神奈川県横浜市鶴見区にある単位制総合学科の高等学校である。元々は普通科であった2つの高校を統合してできた高校であり、今年度で9年目を迎える。生徒数は約700名である。

2. 産業社会と人間

平成5年に行われた「高等学校教育の改革の推進に関する会議」における『高等学校教育の改革の推進について（第四次報告）－総合学科について（報告）－』に次のように書かれている。

総合学科においては、自己の進路への自覚を深めさせるとともに、将来の職業生活の基礎となる知識・技術等を修得させるため、原則としてすべての生徒に履修させる次のような内容の科目として「産業社会と人間」、「情報に関する基礎的科目」及び「課題研究」を開設することが適切である。

また、「産業社会と人間」の目標として、

自己の生き方を探求させるという視点から、自己啓発的な体験学習や討論などを通して、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図る。また、現実の産業社会やその中での自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。

としている。

2.1 未来探索

本校では、前記の報告を踏まえて、1年次の「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」と2・3年次の「総合的な学習の時間」をあわせて、「未来探索」としている。

この「未来探索」では、キャリア教育の考えにもとづき、3年間の学習をとおして、自分の進路実現をむけた準備をすると同時に、社会人として必要な知識や態度を身につけさせることがねらいである。

2.2 未来探索 I

「未来探索」において、1年次の未来探索を「未来探索 I」としている。「未来探索 I」では、自分を知る・社会を知るということをテーマに、自分の興味・関心、適性を確認し、将来の目標を設定する。また、さまざまな進路や社会に目を向け、職業への関心を高めることをねらいとしている。

表 1 未来探索 I 授業計画

	単元	目標
1	自己を見つめる	自己を見つめ、他者を理解するとともに、総合学科における学びの全体像を知る。
2	職業世界を知る (1)	職業への全般的な理解を深めるとともに、学習活動や基礎学力診断テストの振り返りを通して、学びへの目的意識を高めていく。
3	ものづくりを体験する	ものづくり体験を通して、社会生活を支えるものづくりの大切さを知るとともに、職業への理解を深める。
4	履修計画を立てる	興味・関心、卒業後の進路を考えながら、2・3年次の履修計画を考える。

5	上級学校を知る	ぶち夏活動を通して、上級学校への理解を深める。
6	職業世界を知る (2)	さまざまな分野で活躍する若者の姿を通して、職業と生きがいについて考える。
7	社会のしくみを考える	ジョブシャドウイングを通して、社会を構成する事業所・施設の活動を理解するとともに、働く人の姿を知る。
8	地域研究を進める	研修旅行に向けて、自己課題を設定するとともに、その課題の解決をめざす。
9	これからの高校生活を考える	1年間の学習活動を大きく振り返るとともに、これからの高校生活の目標を立てる。

3. 未来探索 I と情報 A

本校では、「情報 A」を 1 年次に設置しているため、「未来探索 I」と連携した授業を行っている。具体的には、上記の表 1 で枠線を太くしてある単元のところで連携を行っている。「ものづくりを体験する」、「社会のしくみを考える」、「これからの高校生活を考える」の 3 つである。

3.1 ものづくりを体験する

この単元では、校外学習として職業技術校に行き、様々な“ものづくり”を、自らの興味・関心に基づいて選択し、体験をする。

3.2 社会のしくみを考える

この単元では、校外学習として、様々な事業所や施設の中から、自分の興味・関心に基づいて選択し、職業体験を行う。

3.3 これからの高校生活を考える

1 年間の「未来探索 I」での学びを振り返り、学んだことをまとめ、発表を行う。発表は個人で行い、各クラス内で発表を行ったあと、クラス内発表において優秀な発表を行った生徒を選出し、1 年次全体での発表会を行っている。

4. 情報 A の授業実践

情報 A では、上記で説明した「未来探索 I」での 3 つの単元において、連携した授業を行っている。

4.1.1 報告書作り

ものづくりとジョブシャドウイングを体験したあとに、情報 A で報告書を作っている。

ものづくり体験では職業技術校で体験したことや学んだことについて、ジョブシャドウイングでは事業所や施設で体験したこと学んだことについて、文書処理ソフトを活用して、報告書という形でまとめている。

「未来探索 I」としては、学びの深化が図れ、「情報 A」としては、文書処理ソフトの活用と情報の統合的な処理を身に付けさせることをねらいとしている。

4.1.2 みらたん振り返り

「未来探索 I」の最後の単元では、1 年間の未来探索 I での学びを振り返り、まとめ、発表するという活動を行っている。

情報 A では、「未来探索 I」の授業中に生徒一人ひとりが決めたテーマに対して、発表する内容作り、発表のストーリー作り、発表資料作り、プレゼンテーションリハーサル大会を行っている。

5. 情報を簡潔に伝える力

情報 A では、産業社会と人間と連携した授業において、「情報を簡潔に伝える力を身に付けさせる」というねらいをもって行っている。

ものづくり体験とジョブシャドウイングの報告書では、自分の報告書に合うタイトルをつけさせたり、みらたん振り返りでは、プレゼンテーションソフトを活用した資料は、1 枚のスライドをシンプルに作成するように指導したりしている。

身の回りに情報が溢れている現在において、たくさんの情報を取捨選択し、簡潔にまとめ、自分が相手に情報伝達を行うために必要な情報だけ（本質）を伝えるという力が必要であると考えている。情報を簡潔に伝える力を身に付けることによって、相手に分かりやすい情報伝達ができ、コミュニケーション能力の向上にも繋がると考えている。

引用・参考サイト

- (1) 高等学校教育の改革の推進について（第四次報告）－総合学科について（報告）－（平成 5 年）
- (2) 神奈川県立鶴見総合高校ホームページ
www.tsurumisogo-ih.pen-kanagawa.ed.jp